

経営比較分析表（令和元年度決算）

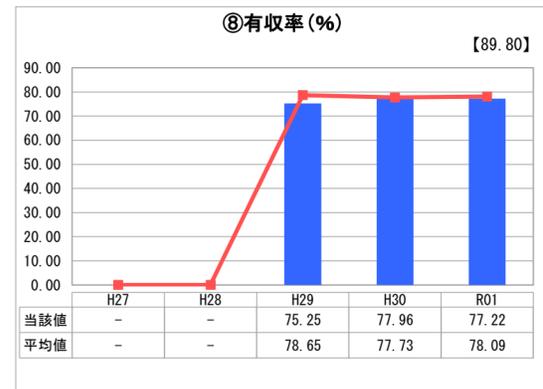
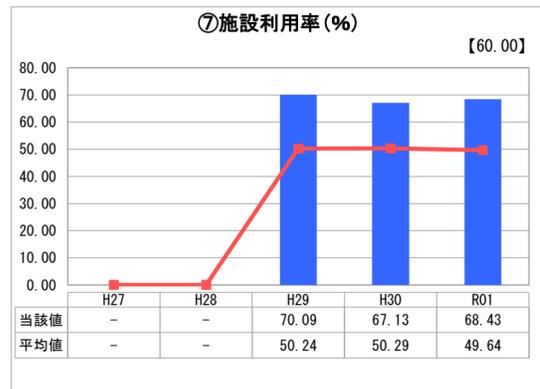
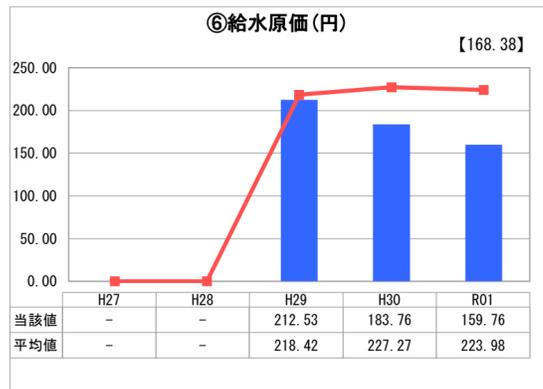
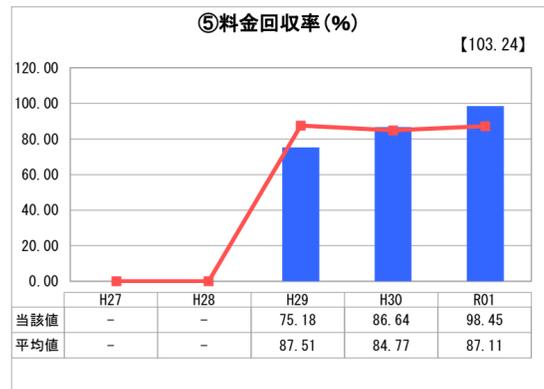
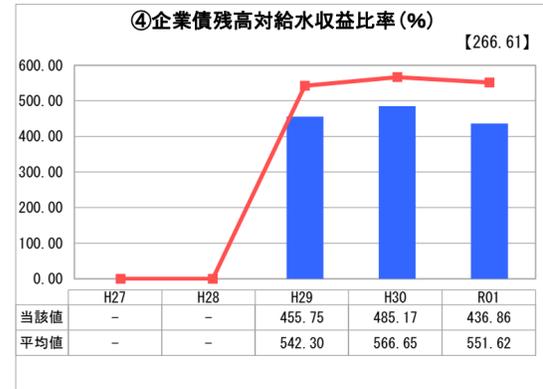
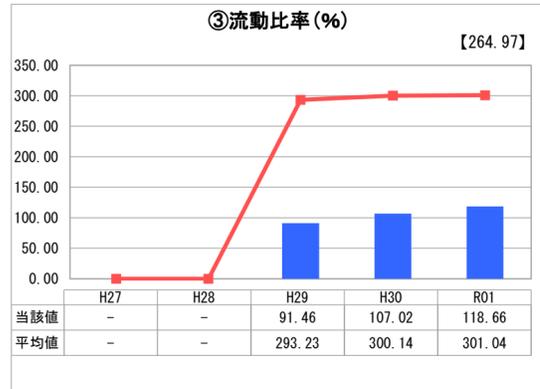
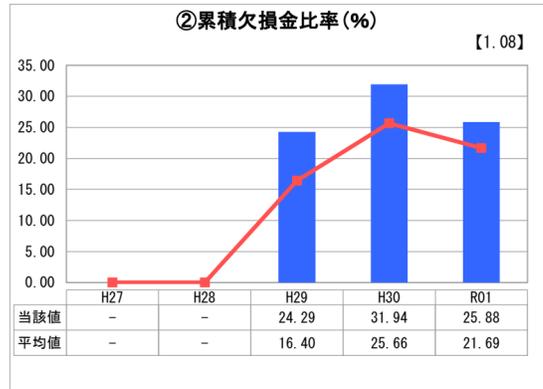
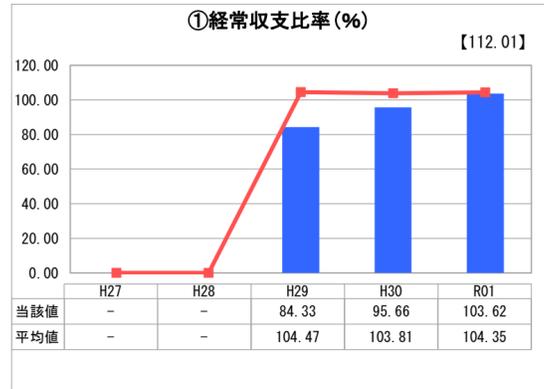
長野県 阿智村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	70.99	98.04	2,937	

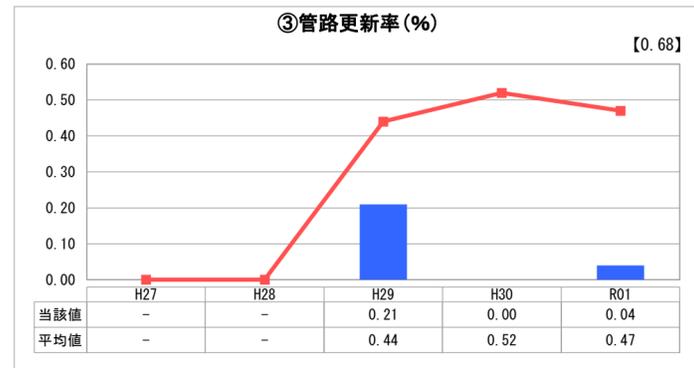
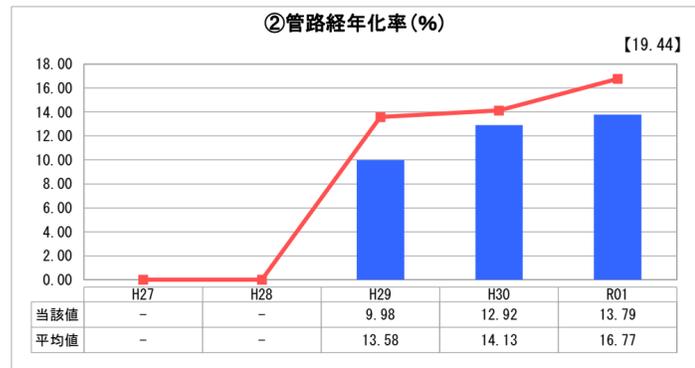
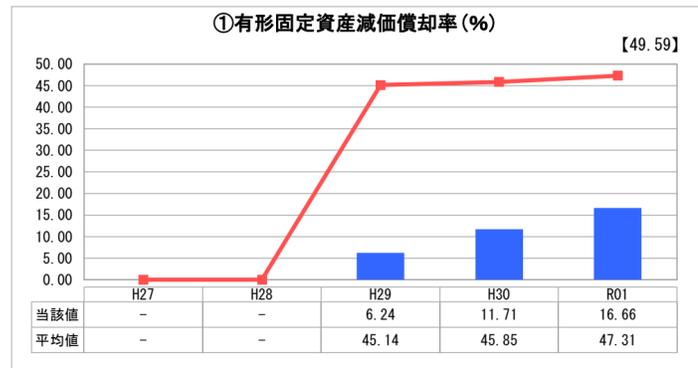
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,359	214.43	29.66
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
6,151	19.00	323.74

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

阿智村の水道事業は、平成29年度に7ヶ所の簡易水道事業と1ヶ所の飲料水供給施設を統合し、阿智村上水道事業として創設しました。

①経常収支比率は上水移行後初めて100%を超えたが今後も引き続き収益性を向上させるために、料金見直し等の増収を検討して参ります。

②累積欠損金が昨年度よりは減少しているが、累積欠損金が発生している以上、水道事業の経営は健全とはいえないため、水道料金の改定等による当期純利益の確保に努めます。

③流動比率は、若干ではあるが、右肩上がりではあるが類似団体に比べるとかなり低いため、今後も内部留保資金の確保に留意する必要があります。

④企業債残高対給水収益比率は類似団体平均値より低い数値を示しています。これは、企業債を財源とする施設拡張・更新事業が少ないため、ただ単に償還金残額が減少しているものと考えられます。管路更新率から考えると必要な更新を先延ばしにしている可能性も考えられるため、投資規模の適正化、将来の負担を軽減するために計画的に進めることが重要と考えます。

⑤料金回収率が向上している一方で引き続き、滞納整理による滞納金額の削減に努めます。

⑥給水原価は、現在、老朽化の更新が進んでいないため抑制できているが、今後、更新するにあたり給水原価が上昇すると考えられる。

⑦施設利用率は、給水人口減少による有収水量の減少等、今後も継続するため、施設の統廃合やダウンサイジングの検討が必要です。

⑧有収率は類似団体と同水準ですが、有収率の低さは漏水や水道メーターの不感等が考えられるため、今後も適切な管理・対応が必要と考えます。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却費は類似団体平均値、全国平均値を大きく下回っています。老朽化資産が年々増加傾向にあり、今後も長寿命化を図りつつ、調査・点検等をしつつ、効率的かつ計画的に施設更新を進めていく必要があります。

②管路経年化率は、類似団体平均値・全国平均値よりも低い水準になっています。今後もアセットマネジメント・経営戦略をもとに管路更新事業を効率的に推進する必要があります。

③管路更新率は、類似団体平均値・全国平均値よりも低い水準になっています。更新スピードが追い付いておらず、今後、アセットマネジメント・経営戦略をもとに、効率的な管路更新を実施していく必要があります。

全体総括

平成28年4月に水道料金改定を行いました。経営状態は依然として厳しい状況です。給水人口に伴う水需要の減少、水道施設の老朽化、更新需要の増大等課題は多く残っています。

このような中、平成29年度に阿智村水道事業アセットマネジメントを策定し、平成30年度には阿智村水道事業経営戦略を策定し、中長期的な視点で水道事業の持続、更新についても検討を行いました。

今後も、定期的な料金改定の必要性や水道事業の将来像を示し、住民との合意形成を図りながら水道事業の基盤強化を目指し、将来にわたって安心・安全な水を提供できるよう、効率的な事業推進に取り組むこと、持続可能な事業運営を実施していきたいと思っております。